

平成21年度 第3回全学FD アンケート結果について

実施日 : 平成22年1月26日(火)

参加者数 : 53人(※学生を除く)

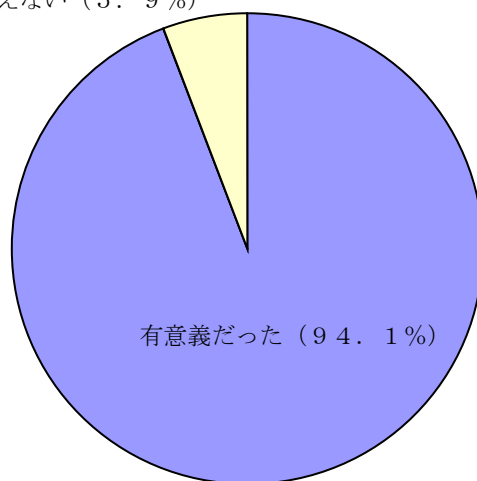
職種	理事・副学長	職員	教授	准教授・講師	助教・准助教・特任助教	その他
人数	1	7	22	10	12	1

回収枚数 : 34枚

回収率 : 64.2%

質問1 今回の全学FDは、「学習成果達成のための教育プログラム開発」をテーマとしましたが、その意義を理解し、あなたの所属する部局で教育改善を行ううえで有意義でしたか。

どちらともいえない (5.9%)



[有意義ではなかった (0%)]

質問2 質問1において「有意義ではなかった」「どちらともいえない」とお答えいただいた方にうかがいます。そう答えた理由、また、もっと詳しく知りたかったことは何ですか。

有意義ではあるが、私個人の立場としてあまり取り組ませてもらえる環境がない点/授業が16:20に終わり、次の研究会が17:00からで、40分しか聞けなかったため

質問3 今回の全学FDの中で特に印象深かった企画は何ですか。また、その理由をお書きください。(複数回答可)

1. 取組紹介① 広島大学理学部	23人	67.4%
2. 取組紹介② システム情報科学府	4人	11.8%
3. 取組紹介③ 生物資源環境科学府	25人	73.5%
4. 質疑応答	3人	8.8%

<理由>

全	全て有意義だった。体験教育の有効性と国際的な学生の組み合わせによるグループの学習の可能性が全学教育～博士のレベルにおいて示唆を得た
1	システム（協調演習）に対して教員が一致して取り組んでいることとその効果／自分の知らない知見が得られた／学部メインの取り組みだったため、システムとして専攻によらず、導入の余地があるかもしれないと感じた／協調演習と似た演習を私たちも実施しているが、演習終了後追跡をしていなかった。変化があったかどうか分かればうれしい／班づくりが大変だと思うが、うまく分けたとしてTAも含め教える側の能力がかなり高くないといけないので、教員側の勉強が欠かせず、プレッシャーを感じる／新しいことが多くあって大変興味深かった。対話によって協調的に学ぶ、ということは何れも参照したいです／何を行いたいのが明確化されており、メッセージが強く伝わってきた／協調演習による新たな方法が興味深かった／自分の担当授業に取り入れることができ、大変有意義であると感じた／協調学習は、小学校などでのグループ学習に似ていると思った。逆にこのような取り組みで動機付けになるということは、むしろ平素の活動が不十分だと言うことなのかもしれない。また、学生同士が平素教え合うことも少なくなっているのかと思った／評価も含めて報告されている。実際の取り組みが示されていた。理論的根拠があった／学生の意欲向上につながるものであったから／協調演習というのは以前テレビで中学生の英語で使っているのを見たことがあるが、実際に大学でどのような利用法ができるのかという点で興味深かった／ユニーク／協調演習の事例が興味深かった／協調演習を効果的に取り組むことで学力が向上することが示され興味深かった。試してみる価値ありかと思う／具体的な説明であったので、分かり易かった／文理に関わらず有用な内容だった／内容が具体的／人材育成のための具体的な手法が聞けた。自学部にも参考にしたい／比較的すぐに取り込みやすい事象だと思う
2	全人的レベルでの企画内容ですでに好結果が見られ始めている／シンセシス型博士人材育成プログラムが興味深かった
3	いずれ来たる苦勞への対処に役立ちそうな現場の話が聞けた／英語教育の重要性を実

感できました／G30に向けての1つの参考例と考えられる／外国人博士は国費でも能力不十分な者がいた。倍率の向上は質の確保によい。メールで応募してくる者にいちいち応答するのも大変。窓口があるのは良い／ブロック・モジュールによる英語コースの改革、英語能力（教員）の取り組み／留学生教育に関して大変参考になりました／ブロック・モジュール制等の新たな方法が興味深かった／ものすごく大変なことに取り組んでおり感動した／教員の能力（英語力も含め）の差をどのように埋め合わせていくのか難しい／モジュール制（3学期～6学期制）への取り組みがうまく行っている例として興味深い。学部教育に導入できないか考えたり／ブロック・モジュールは人が多い学部は可能であるが、留学生1～2人に対して先生を一人つけるような学部には不向きだと思う。ハンドブック欲しいです／大変なご努力をされていることに感銘いたしました／ブロックモジュールによる英語コース改革が興味深かった／ユニークかつ論理的／工学研究院も直面している学部国際コースについての対応をお聞きしたかったので／ブロックモジュールは学生にとって短期間に連続性が高まり、理解が深まる／今後否応なしに考えなければならない問題

質問4 今回の全学FDで採り上げられた部局の取組について、あなたの所属する部局でも採り入れたいと思われた点があればお書きください。また、それはどのような点で優れていると考えられたからですか。

取組①に関して（広島大学理学部）

教員および学生のコミュニケーション促進を通じた自立的な学修能力の涵養／既に1年生前期に全学教育の一環として、担任教員によるチュートリアルを実施しているか。それを協調学習として有機的に展開できると良い／協調学習について、可能性を考えてみたい／広島大学での協調学習（helperとlearner）／学生が主体となる協調的な教育法／協調演習／学部の協調プログラム

取組②に関して（システム情報科学府）

九大方式のCIの定量化ができて、それが教育の実質的な評価につながるのであれば、使ってみたい。これらの定量化は非常に難しいと思われるため、実際にできるなら使ってみたい／シンセシス型博士人材育成プログラム

取組③に関して（生物資源環境科学府）

「ブロック・モジュール」はおもしろい取り組みと思われた／ブロック制やモジュール制／4学期制。学生への利点、教員への利点を考えたい／ブロックモジュールによる英語コー

ス改革／英語教育／ブロックモジュール（緒方先生）は参考になる。一人の教員が 5 回程度の英語講義で調整できる。学生も連続して忘れずに次の講義に臨める／留学生選考方式／英語の双方向モデル、ブロックモジュール

○その他

我が所属部局での取り組みの現状報告会があると良いと思う。今の状況が把握できない／正直、九大では大部分の教員が疲れていて、これ以上できないと思う。

質問 5 あなたの所属する部局で、教育プログラムの立ち上げやカリキュラムの見直しを行う際に課題となっていることは何だとお考えですか。また、解決策について個人的な考えも含め自由にお書きください。

学内調整、イニシアチブの取り方・取らせ方／教員の負担感の違い。複数の研究院に所属しているため、お互いの考え方を合わせるのが難しい。／当学部の場合、分野が広く（鉱物、物理、化学）、それぞれが専門的であるため、各個の教育が逆に薄くなっている。そのあたりを結びつけて学生の教育を行っていくプログラムが必要と思われる。また、人が少ないので多様なプログラムの展開をするのが難しい／教員の意欲の欠けている部分／部局 FD で、QUEST-MAP を作る頃から外来教授から教員が無反応・活気がない等の批評が第一声という現状でした。立ち上げが大変な様でした／教員の意識改革／教員組織の理解と熱意および協力の不足／部局内での協力／部局内のコミュニケーション／プログラムの立ち上げ等に向けて、なかなか余裕がもてません（否定的な言葉ですみませんが）／厳密なネットワークと人間関係。とにかく時間が欲しくて、今のままでは制度内の設定その間で過労死しそうです。

質問 6 全学FDに対する意見、提案等ありましたら自由にお書きください。

EEP の紹介があったが、例えば動物実験に関する教育訓練の英語版作成も該当するのだろうか？／九州大内でのいろいろな教育方法の取り組みをまとめるといいかと思っております／学生モニターを多く参加させてもらいたい／横断型のプロジェクトをキーとしたプログラムを増やしたい／参加できる時間帯にやってほしいと思います。